

2011 年度 工学部共通学群体育・健康科目

# 自己点検・評価報告書

2012 年 3 月 31 日

## 目次

1. 理念・目的	
1-1. 教育目標	.....1
2. 教員・教員組織	
2-1. 方針（目標）に沿った教員構成、能力・資質等の明確化	.....2
3. 教育内容・方法・成果	
3-1. 学習・教育目標とカリキュラムとの整合性（教育体系の構築）	.....3
3-2. 授業科目と担当教員の整合性	.....4
3-3. シラバスに基づく授業の実施	.....5
3-4. 卒業研究の指導状況	.....6
3-5. 具体的な取組内容と成果（FD/授業改善）	.....6
3-6. 学生支援	.....8

## 1. 理念・目的

### 1-1 教育目標

#### 〈現状説明〉

共通学群での教育目標は 2009 年に整備を行い、工学部の全ての学生を対象に、高度な専門分野を学ぶために必要な基礎力を養う分野と、専門領域を超えた学際的な分野の教育を展開することを教育の主たる目的にしています。

具体的には、数学科目、物理学科目、化学科目（以上数理専門基礎科目）、英語科目、情報系科目、人文社会系科目、体育・健康科目、教職科目といった科目を通して、4年間の学習に必要な基礎力を鍛え、さらに、工学の基礎の上に広い視野と柔軟な思考力・応用力を持って社会に羽ばたく人材の育成を目指しています。

これを受け、体育・健康科目では、教育目標を以下のように設定しました。

心と身体の健康を管理できる能力を養成し、身体機能の維持・増進に加え、モラルの体得をねらいとした本学独自のスポーツ教育の実践により、社会の一員として誇りや自信の持てる態度を持ち、社会や他者への貢献ができる人材を育成することを目標としています。また、身体的コミュニケーションスキル（実技科目）においては、3つの目標を設定しております。第一に生活習慣の改善・確立。第二にスポーツマンシップの実践（豊かな人間性教育とコミュニケーション技術の育成）。第三に安全な身体活動（リスク管理できる能力を含む）を目的としています。その実現のために、2010年から生活習慣教育として毎日の日常生活習慣[運動、休養、栄養]のチェック表の記入、メンタルヘルスとして MHP（メンタルヘルスパターン）調査、スポーツマンシップ教育として体育実技において講義を実施し、評価対象としています。

#### 〈点検・評価〉

共通学群および体育・健康科目の教育目標は、2009年度の学群制度の導入を契機に整備されて現在に至っている。高校生までの「自分のことは自分で行う」教育から、社会の一員となる直前の教育機関として、社会が求める「他者への貢献」、「他者への尊重と気配り（コミュニケーション）」を重要視した態度を育成することは、工学部の掲げる「豊かな教養を涵養する体系的学習」、「他者との共生」という教育方針に十分に沿ったものと認識しています。

体力の維持・発達を目的としていた従来の体育実技を基礎に、将来を見据えた生活習慣教育と広い意味での目標設定は意味のあるものと考え、礼節・エチケットも生活習慣と捉え生活全般において習慣化し、授業外でも実践することを要求していることは評価できます。

#### 〈将来に向けた発展方策〉

生活習慣の改善、メンタルヘルスにも影響を与えるスポーツマンシップの実践は、今まで学生が気付かなかった部分を補完すると考えています。個人の尺度から社会レベルの尺度に変える必要性、言動より行動で社会に表現できる態度を養うことは、帰属意識にも通じるところがあると考えます。以上のことから、健康・体育科目における教育目標を実現し定着することは、重要な使命と考えています。方法的にまだまだ試行錯誤していく必要があると考えますが、今後5年間はこの目標を追求し、体育科目の教育方針が大学全体に周知され、認知される様努力していきたいと考えています。

#### 〈根拠資料〉

学習の手引 工学部 2010、体育実技・共通健康科目履修の手引き 2010、生活習慣記録用紙、MHP 調査用紙

## 2. 教員・教員組織

### 2-1 方針に沿った教員構成、能力・資質等の明確化

#### 〈現状説明〉

体育・健康科目は、専任教員3名と教育支援センター特任教授1名、非常勤講師11名で構成されている。専任教員の職種と年齢は、教授（49歳）、准教授（37歳）、助教（40歳）の3名と特任教授（66歳）である。専門領域は、運動生理学3名、スポーツ心理学1名であり、過去に科学研究費を受託している教員が1名いる。専門種目は、アメリカンフットボール1名、サッカー2名、コンディショニング&トレーニング1名である。専任教員は高校時代にバレーボール、野球経験者もおり、それぞれの教員は大学授業において5科目以上の指導を10年以上経験している。

専任教員の指導実績は、日本オリンピック委員会強化スタッフ（オリンピック、ユニバーシアード、アジア大会に帯同）、県体育協会スポーツ科学委員会委員、県教育委員会スポーツ振興審議会委員、県サッカー協会優秀監督賞受賞、Jリーグ所属チームのスポーツ科学分析スタッフ、全米学生アメリカンフットボール優勝チームアシスタントコーチ、大学ラグビー日本選手権優勝チームのフィットネスコーチなどがあげられる。以上のことより、専任教員の能力・資質は社会的にも認められた指導力があると判断できる。

専任教員の学位については、全員修士ですが、2名は博士課程満期退学し、博士論文を作成中である。他1名も現在他大大学院に在籍し、学位取得を目指している。

非常勤講師は、講義科目は1名、実技科目10名です。講義科目は、生活習慣に関連する健康科学については、医学部の講師であった先生にお願いし、授業評価も高い。実技科目は10名であり、それぞれ各先生の専門種目を担当している。特に、バドミントン、バスケットボールについては、現在他大学1部校のチームで監督もしくはコーチをされている先生にお願いしている。また、2名の非常勤講師は現役選手を続けており、うち1人はサンボ競技において日本選手権12連覇中の非常勤講師もいる。女性の非常勤講師は3名おり、女子学生にも考慮している。以上のことより、授業において十分な指導力があると判断できる。

#### 〈点検・評価〉

専任教員については、准教授と助教は年齢的に逆転しているが、助教は本年昇格審査の対象となる。2010年から生涯スポーツ、生活習慣の実践的な体験、ゴルフとスキーの集中授業を導入したが、専任教員のスキルアップが課題となっている。非常勤講師については、現役の3名については年間にそれぞれ1回程度競技大会出場のため休講になるが、競技現場での貴重な情報や体験を学生に還元することを考えるとやむを得ない状況と思われる。

講義科目においては、生活習慣病における行動変容の重要性が医学的見地から解説され、実技で実施の生活習慣教育との連携が成されている。

#### 〈将来に向けた発展方策〉

専任教員については、質の保証として5年以内に博士の学位の取得が必要と思われる。集中授業は、専任教員全員の参加が必要であり、指導力のスキルアップとしてゴルフ技術の向上、スキーについては指導員資格を取得することを目標としていきたい。非常勤講師については、専任教員と合同で各種目の指導者講習会を実施しスキルアップの場を設けていきたい。

#### 〈根拠資料〉

教員プロフィール2010、非常勤講師業績報告書

### 3. 教育の内容・方法・成果

#### 3-1 学習教育目標とカリキュラムの整合性（教育体系の構築）

##### 《現状説明》

体育・健康科目は、教育目標を達成するために半期に「講義科目」5コマ、「演習科目」4コマ、「身体的コミュニケーションスキル（実技）」13種目44コマ、学外集中授業2種目2コマを設けています。

体育・健康科目の学習教育目標達成のために、実技科目では15週のうち第1週目、2週目、3週目、15週目の授業については統一カリキュラムで第1週は授業内容説明、第2週は講義形式で、生活習慣の改善の重要性と具体例の提示、生活習慣チェック用紙の記入方法、スポーツマンシップの説明と授業における実践について説明し、授業内において全員が共通認識を持って行動できる様にしています。また、メンタルヘルスパターン調査も実施しています。第3週は文科省の新体力測定、第15週は講義形式で、生活習慣に関するレポートの提出、スポーツマンシップの授業における実践のまとめを行っております。2010年度からゴルフ、スキーの学外集中授業を実施し、共同生活における協調性の向上、理想的な生活習慣の実践を目的として体験型の学習プログラムを取り入れました。講義科目では、健康科学論、スポーツ健康学、スポーツ生理学、スポーツ心理学、スポーツ社会学の5科目で構成されています。健康科学論は、生活習慣病に関わる内容や健康について幅広い知識を習得することを目的としています。スポーツ健康学は、生活基盤となる健康・運動に対する知識、習慣を身につけて健康で快適な生活環境作りを目的とし、スポーツ生理学は、運動が及ぼす生理的変化を解説し、運動プログラムを作成する能力を養うことを目的とし、スポーツ心理学は、ピークパフォーマンス発揮について紹介し、心理検査・調査を行い「心・メンタル」面の強化を目的とし、スポーツ社会学は、スポーツの社会性について解説しています。演習科目は、エクササイズ演習、体格・体力と健康（演習）、ヘルスコンディショニング演習の3科目を開講しています。エクササイズ演習と体格・体力と健康（演習）は、トレーニングの実施に伴い、客観的な数値として自分の身体の変化を捉え、自分に合ったトレーニング方法の修得を目的としています。ヘルスコンディショニング演習は、心と体の調整法を日常生活の中に意図的に取り入れ、生活環境を工夫して運動量を増やす能力を養い実践することを目的としています。実技及び講義科目の上位科目として演習科目を設け、運動効果の数値化と健康管理のためのプログラムが組める能力を養う教育体系をとっています。

##### 《点検・評価》

学習目標とカリキュラムの整合性は、相当程度の対応はできていると評価していますが、今後更に発展させていく必要があると考えます。2009年度からの豊洲校舎での体育科目開講を実現したことは、今後の豊洲校舎での体育科目の可能性を広げたとして評価できると思われれます。

##### 《将来に向けた発展方策》

現行のカリキュラムは、改善の余地はあると思われれます。問題点は、木曜日と金曜日に学生の履修が集中し、またシステム理工学部を増コマ、デザイン工学部の新設により体育施設及びロッカーなどの付帯施設が不足する傾向にあることから現状では大きな変更は無理な状態です。また、今後体育施設および付帯施設の見直しが必要と思われれます。また、曜日、時限、種目によって履修者数のばらつきが大きいことから、時間割調整をすることで、1種目履修者数の平均化を図っていきたい。

## 《根拠資料》

学修の手引 工学部 2010、大学ホームページ

### 3-2 授業科目と担当教員の整合性

#### 《現状説明》

共通健康科目は、3人の専任教員、1人の特任教員、11人の非常勤講師で担当している。

講義科目については、健康科学を他大医学部講師にお願いし、スポーツ健康学、スポーツ生理学、スポーツ心理学については各専門分野の専任教員がそれぞれ担当している。演習科目については、授業科目によって方法は違うが現在の体力の数値化、トレーニングプログラムの立案、トレーニング効果の数値化と統計的な処理を行うことから、いずれも競技現場の指導歴の長い専任教員および特任教授の4名で担当している。

実技種目については、13種目のうちフラッグフットボール、軟式野球、バレーボール、バトミントン、バスケットボール、テニス、フットサルの7種目については専門種目の専任教員及び非常勤講師が担当しているが、卓球、フライングディスク、ウエルネススポーツ、ソフトボール、ゴルフ、スキーの6種目については、5～10年以上の大学授業において指導経験のある専任教員及び非常勤講師が担当している。また、専任教員は、スキー種目、ゴルフ種目の集中授業の質の向上のため、スキー種目については全日本スキー連盟指導員資格取得を目標に指導法の研鑽を積んでおり、ゴルフ種目についても指導技術の講習に参加している。

生活習慣教育では、スポーツマンシップの実践として、モラル的な内容が盛り込まれ、授業中に煩わしいことなど指導していく必要性とともに実践しているが、授業アンケートでは平均以上の評価を受けている授業も多く見受けられる。

#### 《点検・評価》

講義科目については、専任と1人の非常勤講師で担当しており、それぞれ専門分野であることから整合性はとれていると考えている。

実技では、全種目において、専門種目の指導者でないことは、授業科目と担当教員の整合性は若干の改善の余地はあると考えている。しかしながら、実技種目数と教員の人数からすることは困難である。また、非常勤講師公募時の応募者は研究色が強く、競技現場や大学授業での指導力の面では適当な人材が少ない傾向にあることから、現在の体制からの改善は難しいと考える。体育・健康科目の実技授業における教育目標は、第一に生活習慣の改善・確立、第二にスポーツマンシップの実践（豊かな人間性教育とコミュニケーション技術の育成）、第三に安全な身体活動（リスク管理できる能力を含む）を目的としていることから、種目のスキルアップより学生に対する教育力重視で考えていることから授業科目と担当教員の整合性は相当にとれていると考える。

また、本学学生に有用であると思われるゴルフ、スキー種目の集中授業のため専任教員の指導技術向上のための研鑽を積んでいることは評価できる。

#### 《将来に向けた発展方策》

講義では、リアクションペーパーによって学生の要望を反映した内容を取り入れているが、体育分野での講義としては、講義科目の分野を広範囲に広げることも必要と思われる。

実技種目では、生活習慣教育として本学独自の指導法を展開しているが、今後より完成度の高い教育システムを確立できる様に、非常勤講師との意見調整をしていきたい。

## 《根拠資料》

学修の手引 工学部 2010、授業アンケート

### 3-3 シラバスに基づく授業の実施

#### 《現状説明》

実技授業については、第1週目は授業内容、評価基準、注意事項など全授業同一のプリントを用意して実施している。第2週目は各種目で生活習慣の説明、記録方法、スポーツマンシップの実践について同一資料によって講義を実施している。第3、4週目は文部科学省の新スポーツテストを合同授業で実施し、データ処理ソフトによって全国平均値との比較、トレーニングアドバイスの実施をしている。最終週は講義で生活習慣のまとめ、スポーツマンシップのまとめと今後の生活習慣について講義を実施している。実技授業では、半期15週中5週のシラバスは専任教員と非常勤講師ともに全種目同一内容で実施されており、体力測定など合同授業となる場合もあるため、シラバスに基づいた授業が行われてなければ合同授業など不可能になる。ゆえに、実技授業についてはシラバスに基づく授業は実施されている。前期科目をテクニカル種目とし、個人レベルでの安全な身体活動を優位に評価し、後期科目をスポーツコミュニケーションとしてチームコミュニケーション、礼節、気づきについて優位に評価している。実技であることから毎時間減点法で評価している(1コマ、安全な身体活動：2%もしくは3%、スポーツマンシップの実践：2%もしくは3%)。また、レポート15% (5%×3回)、レポート内容、まとめ、技術などの達成度10%の総合100%で100点満点評価している。専任教員は、非常勤講師との連絡を曜日担当制にしており、メールや授業終了後の打ち合わせにおいて、授業の進行状況、事故、要望などの報告を受けており、ここ2年でカリキュラムを変更したことで、非常勤講師の授業展開に誤りや混乱のないように対処し、主任に報告するシステムになっている。

講義授業については、各担当者シラバスに沿って実施している。授業の進行状況により若干の変更がある程度であると把握しているが、実技授業と比較してチェックシステムは確立されていない。

休講、補講については、専任、非常勤の休講に限らず補講が不可能なであるか、専任教員が代講可能な授業については、代講を実施しシラバスに大きな影響を及ぼさないように対処している。

学生の授業アンケートにおいては、シラバスに関する設問では平均的な評価を受けている。

#### 《点検・評価》

実技授業については、専任および非常勤講師担当授業において、1週目の授業説明と諸注意、3、4週目の新体力テストについては合同で授業が進められている点では、シラバスに基づく授業の実施については保障されている。また、非常勤講師とのコミュニケーションは十分に取れており、専任教員の曜日担当制は機能していると評価できる。

講義授業については、シラバスに基づく授業の実施は、全教員の実施状況のチェックシステムはないため今後の課題となる。

代講措置については学生の負担を最小限にするためにも、今後継続していくべきと考えている。

#### 《将来に向けた発展方策》

実技授業に比べ、講義授業はシラバスに沿った実施については専門の担当者に任せるところが多く、明確なチェックは実施されていない。今後、シラバスに沿った授業の実施状況などをチェックするシステムを確立していきたい。

#### 《根拠資料》

大学ホームページ、学習の手引き 工学部 2010、シラバス 2010

### 3-4 卒業研究の指導状況

#### 《現状説明》

現在は、行っていない。過去に数人の卒業研究指導を行っていたが、当時指導した教員は全員退職している。2年前に体育でゼミを受けたいという学生もいたが、対応した教員が新任であったこと、工学分野での卒業研究指導の経験がなかったため断った。

スポーツ工学分野として、体育科目でも卒業研究指導を行える分野として考えているが、運動生理、身体動作分析などに必要な測定環境環境、機材が十分でないことから外部施設へ頼らざるを得ない状況である。

また、専門学科との連携体制はとれていない。

#### 《点検・評価》

スポーツ工学的な分野を行うための測定・実験器具、施設が不十分である。

専門学科との連携が必要であり、まだ十分な体制ではない。

早急に、受け入れ準備を始める体制を構築するために、環境整備項目を具体化し、新規事業計画、科研費などの準備をする必要性がある。

#### 《将来に向けた発展方策》

施設・設備、装置などを今後充実させるために、外部資金の調達が必要であると考える。

学内の使用可能な施設・設備の把握も必要であると考える。（生命科学科にある実験装置など）今後、学内の実験施設、設備の整備を進めるとともに、外部施設との連携を強化し、卒業研究指導実現に向けて準備を進めていく。

各専門学科との連携体制を強化し、ご指導いただきながら卒業研究指導体制の整備を積極的に行う。

#### 《根拠資料》

なし

### 3-5 具体的な取組内容と成果（FD/授業改善）

#### 《現状説明》

体育・健康科目では、従来の実技種目は身体的コミュニケーションとしてチームスポーツによるコミュニケーションスキルの向上を狙いとし、体力の維持・増進を目的とした運動量とスキルを追求してきた。

2008年からスポーツマンシップ教育として、Good sports、Respect、Fair play、Good loser、Loyalty、Smile、Challenge、Good habitをキーワードとして、スポーツマンシップとは、「相手を尊重(respect)し、ルール（規則）と審判に従う。フェアプレー(fair play)に徹し、卑怯な方法で相手より優位に立とうとせず、負けた時は勝敗を受容しうなだれ落胆せず、共に喜び、胸を張って次に備えることができるgood loserであること。また、loyaltyを持ち、チームへの愛情を持ちチームの一員として協調し助け合いフォアザチームの考えができ、いつも笑顔で挑戦していく心構えといえます。」と本学独自の定義づけをし、スポーツマンシップの実践こそがgood sports（信頼できる人）に繋がるとした。スポーツマンシップは芝浦工業大学の学生が取るべき



最も基本的な態度を促す精神的な理念であり、人間形成の土台となる基礎を築く重要な要素を持っているとして指導している。その結果、相手を選ばないペアーを組むこと、自然に自己紹介と挨拶が習慣化してきている。またトイレなどの無断退室者、遅刻時の無断入室者は皆無になり、他不可抗力でミスをした場合の取るべき態度を考え実践するようになってきている。2年間の実施ではあるが、他多々スポーツマンシップ教育の効果は感じられるようになってきている。スポーツマンシップ教育実施にあたって、2008年から複数回の講師連絡会議の場で今後の方向性について意見交換が実施されている。また、スポーツマンシップの定着、帰属意識を高めるためにキーワードと大学名、校章をプリントした実技指導着を作成し、全実技指導教員に着用をお願いし、芝浦工業大学の教員として対応することをお願いしている。

2008年からスポーツマンシップ教育を行う際に精神的な要素も扱うため、予備資料としてメンタルヘルスパターンの調査を4月の科目ガイダンス時に、目的を説明し理解していただいた学生に自由提出で回収して、メンタルヘルスパターンのデータベースを作成し、実技指導教員には非常勤講師控室のコンピューターのみから閲覧できるようにしている。2010年からは、実技履修学生のみから、メンタルヘルスパターンの回答を回収している。

2010年から生活習慣教育として、本学独自の教育システムを展開している。生活習慣教育とは、一般的な生活習慣では、起床と就寝などの休養、朝食などの食習慣、適度な運動の実践として運動習慣が挙げられる。本学体育・健康科目での生活習慣教育は、一般的な生活習慣に加え、他者への貢献、生活上の心構えとしてスポーツマンシップの実践、つまりモラルの向上も生活習慣としてとらえている。将来社会の一員として、誇りを持ち、コミュニケーションの基本的な姿勢として相手を尊重する (respect) ことが重要であり、自分も respect されるような人物、つまり good sports (信頼できる人物) になる習慣を身につけることを最終目標として取り組んでいる。また、good loser として、ミスをしたときの対処を重要視している。誠意をもって次に何ができるかリカバリーを行動で表すことを奨励している。後悔や逃避より早期の対処が相手や自分にとってメンタルヘルスの上で有用であることを指導し実践している。

生活習慣教育とは、本学独自のとらえ方のため、今後全指導者が積極的に意見交換に参加しPDCAを繰り返すことで熟成されたものになっていくと思われる。各種目の授業においては、専門種目の技術より優先して礼節、けじめなどを重視した指導に留意するようご理解ご協力いただいていることから、通勤についてはジャージや軽装を禁止し、スーツなどラフにならないよう励行しご理解いただいている。

基本的に、4限終了後専任教員と非常勤講師の面談を行い、授業の進行状況、学生の履修状況、用具の不足、設備の不具合、傷害発生状況など連絡を取って把握し、対応している。また、メーリングリストを作成し、メールを通じて随時授業の進行、変更点など連絡を取っている。連絡責任については専任教員による曜日担当制をとっている。

体育館入り口に施設変更、連絡、忘れもの、施設利用などのインフォメーションボードを作成し、学生が混乱しないようにした。

2009年にフリーウエイト・トレーニング室の新設、マシーン・トレーニング室の整備を行い、演習科目の質を高めることができている。また、課外活動の補強施設としても貢献している。

2010年はゴルフフォームの動作解析室を新設し、ゴルフ授業の質を高めていることができた。

### 《点検・評価》

スポーツマンシップ教育は2008年度から実施し、実技・講義共に遅刻、欠席時の対処、トイレなど退室時にコミュニケーションを取ることができるようになっている。

生活習慣教育としては、2010年度から実施している。生活習慣記録方法について徹底されていない。課題については、学術情報センターの課題提出ホルダーを使っての提出方法が1年生では熟知されていないため一部混乱があった。

メンタルヘルスパターンの調査資料は、実技科目においては授業態度などの指導の際に、メンタル的に障害の可能性のある学生には慎重に対応する必要があるため、有効に利用されている。

体育・健康科目における、教育目標は他大学にない教育方法を目指し、社会に出た時には必ず全学生に有用なものと確信しており、評価できると考えている。しかしながら、方法論的には、まだまだ熟成時間が必要であると思われる。

### 《将来に向けた発展方策》

体育・健康科目としては、工学部、全学科の卒業要件に必修としていただき、全学生が共通認識を持ち、心身共に健全な生活を実践の一助となるようにしていきたいと考えている。

生活習慣教育は2010年度に始めたばかりであり、問題点は多々上がってきている。学生が記録する毎日の生活習慣記録表の項目、記録方法の再検討が必要である。体力測定データの活用方法の再検討も必要である。体育・健康科目会議および非常勤講師のメーリングリストによる意見交換を活発に行い問題点、改善点の洗い出しと、修正・改善に努め、各学生により理想的な生活習慣の定着が実現する方法を確立していきたい。

将来的には大学生としての導入教育もしくは、芝浦工業大学の帰属意識を高める一環として初年次教育として全学部、学科の学生に講義科目1コマ、実技科目4コマの6単位の必修科目として、全学生における共通認識の共有、生活習慣の改善、スポーツマンシップの実践と習慣化によって体育科目標を大学全体に定着させたいと考える。

メンタルヘルスパターンについては、各授業担当教員が必要に応じて閲覧するシステムになっているが、履修確定次第調査を実施し各担当教員にあらかじめ提供できるシステムを構築していきたい。

現在の施設では種目設定に限度があることから、施設設備の改善が必要と思われる。体育館のフロアの改善、グラウンドの改善など長期計画を科目会議で検討し提案していきたいと考えている。

### 《根拠資料》

体育・健康科目 非常勤講師連絡会資料、身体的コミュニケーションスキル オリエンテーション資料

## 3-6 学生支援

### 《現状説明》

体育関係施設の整備として、2007年から多目的コートの人工芝化の提言と業者推薦及び照明設置、応急処置用の製氷機の第1クラブハウスと体育準備室への設置、フリーウエイトトレーニング室の新設、マシントレーニング室、動作分析室の整備等を行った。

課外活動については、現在体育会所属団体のゴルフ部顧問、アメリカンフットボール部顧問、サークル。同好会ではソフトボールサークル顧問、ゴルフ同好会顧問、ソフトテニスサークル顧

問を担当している。また、TBTパイロット部門相談役、SOS主催のマラソン練習会への講師派遣などを行っている。課外活動においては、積極的に取り組み、環境の改善、学生の意識改革を行い、本来の学生スポーツ像を解説し、各部活動のあり方についてアドバイスし、学連登録、体育会登録を勧めている。

2010年から土木工学科（浜野）、建築工学科（生方）の1年生の担任を担当し、積極的に面接などの学生支援に参加している。一部ではあるが、大宮バックの学生（上級生）の履修者については友達のいない学生が多い傾向にあり、その学生については友人を作るきっかけづくりをしている。（授業内、外において）

#### 《点検・評価》

施設の改善、有効活用については授業および課外活動において評価できる。課外活動の顧問をしているが、体育会については個別に相談に乗れる体制を作る必要もあると考える。

少数ではあるが、引きこもり学生支援、休み時間における相談、居場所の提供などはできている。課外活動においては、アメリカンフットボール部の学連登録（2008年）、ゴルフ部の学連登録（2010年）に貢献している。

現状としては、体育・健康科目として学生支援に対する最終目標とするビジョンがない。

#### 《将来に向けた発展方策》

体育会活動を、体育授業の補完する存在として、体育会活動の健全化（理想的なスポーツ活動）を図り、体育会参加学生を増やすことは重要であると考えている。

今後、体育・健康科目として何ができるか、項目の明確化と短期・長期実施計画を作成する。

#### 《根拠資料》

クラブインフォメーション、大学ホームページ